

第6節 都市経営の視点に立った行政運営

第1項 市民ニーズに基づく行政経営を行います

めざしたい将来像：

50万人になろうとする市民が、安心して住みやすく、満足してもらえるようなまちを実現します。そのため、継続的な対話を経た力強い連携から政策が生まれる仕組みづくりをし、経営基盤を強化します。

《指標》

住み続けたいと思う人の割合

(1) 指標の説明

誰もが住みやすい環境形成が実現できれば、今後も住み続けたいと思う意向が強くなると考えます。そこで、住み続けたいと思う人の割合を指標とします。

(2) 設問

この指標は、次の設問により直接的に聞いています。「個人・意向」

Q20 あなたは、これからも松戸市に住み続けたいと思いますか。次の中から、あてはまる番号1つに○をつけてください。

- | | | |
|-----------------|---------------|------------|
| 1 住み続けたい | 3 どちらとも言えない | 5 住み続けたくない |
| 2 できることなら住み続けたい | 4 あまり住み続けたくない | |

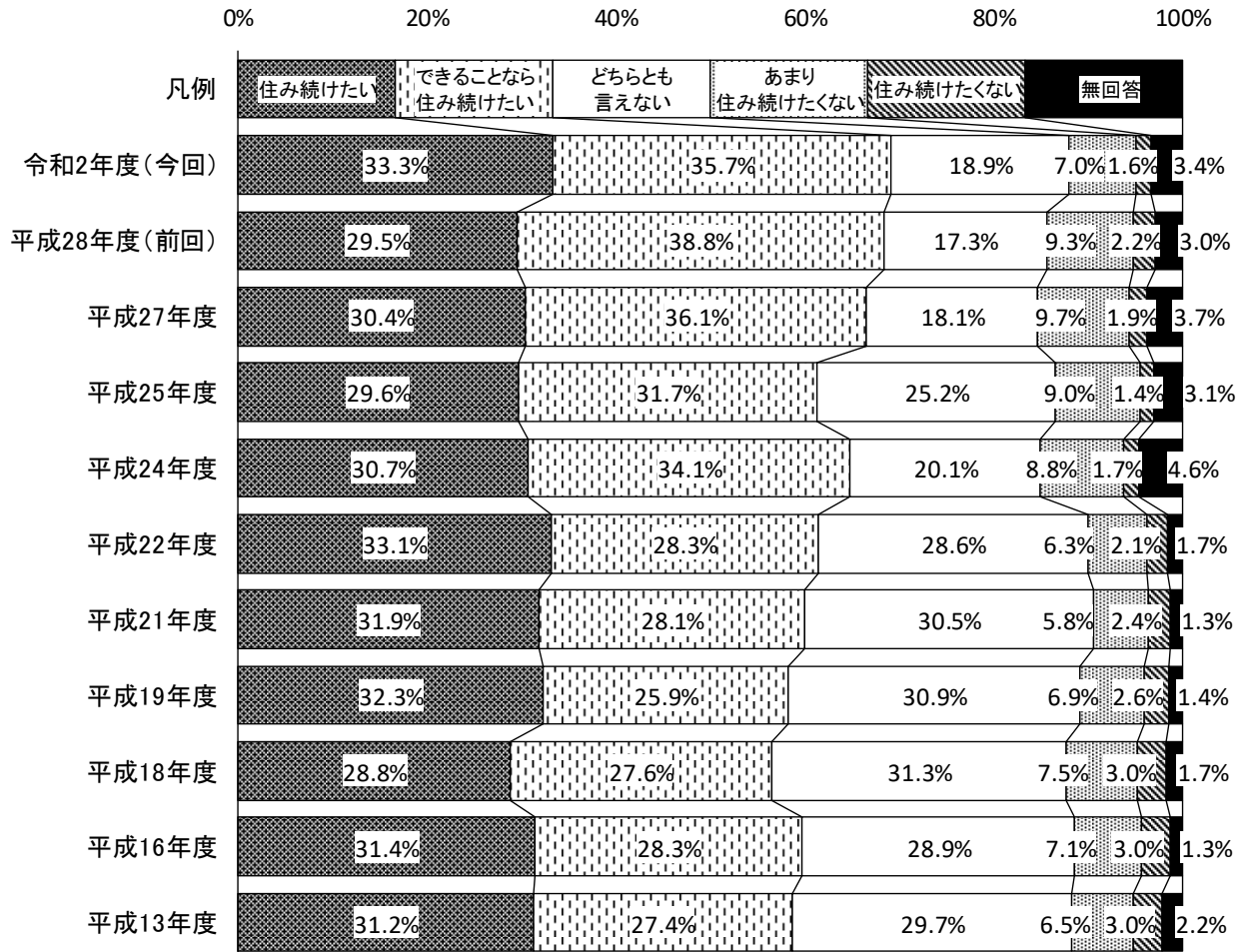
(3) 指標の現状

	平成 13年度	平成 16年度	平成 18年度	平成 19年度	平成 21年度	平成 22年度	平成 24年度	平成 25年度	平成 27年度	平成 28年度	令和 2年度
住み続けたい	31.2%	31.4%	28.8%	32.3%	31.9%	33.1%	30.7%	29.6%	30.4%	29.5%	33.3%
できることなら 住み続けたい	27.4%	28.3%	27.6%	25.9%	28.1%	28.3%	34.1%	31.7%	36.1%	38.8%	35.7%
計	58.6%	59.7%	56.4%	58.2%	60.0%	61.4%	64.8%	61.3%	66.5%	68.3%	69.0%

(4) 指標の分析

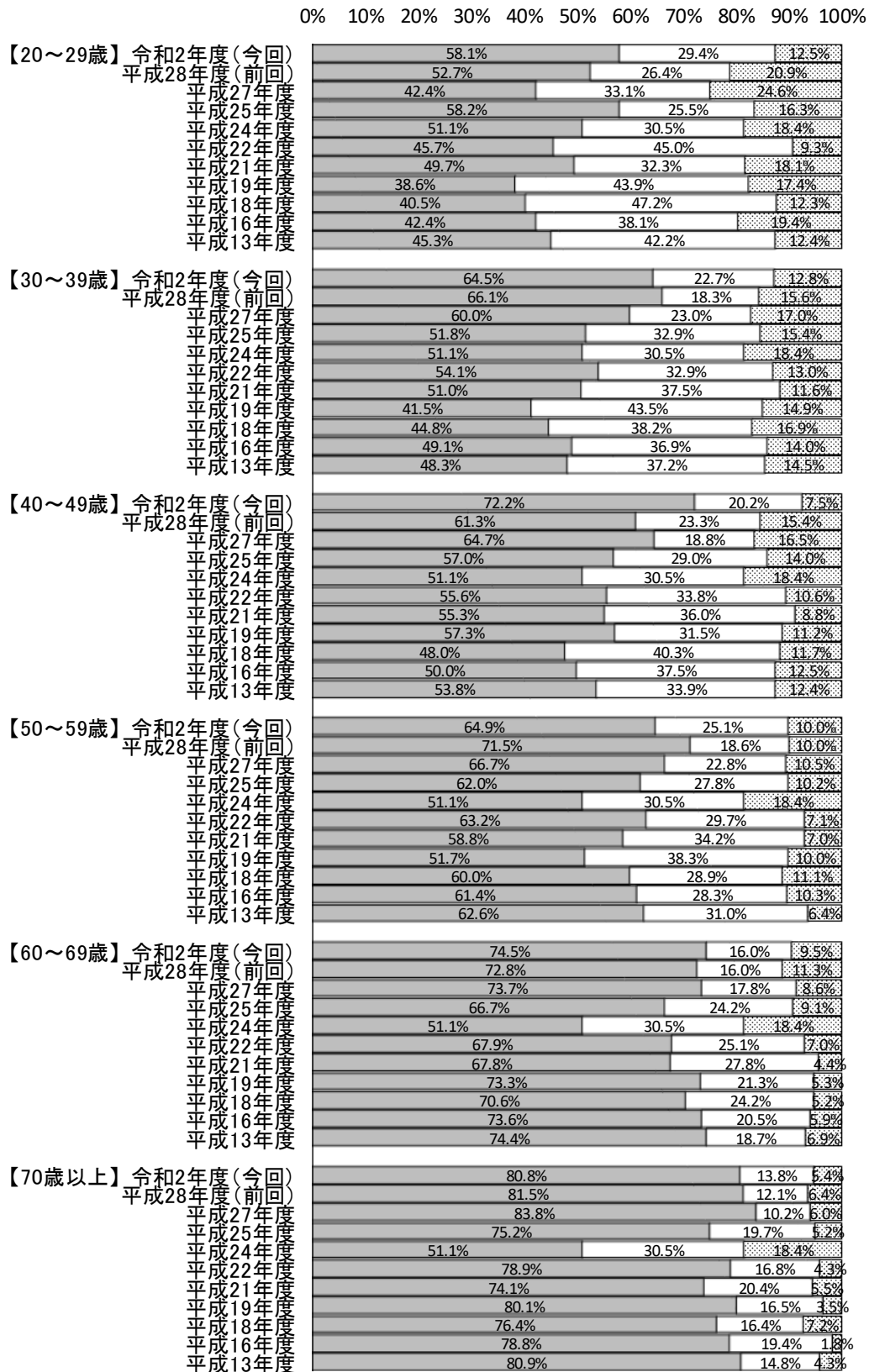
☆松戸市に住み続けたいと思う人は約7割となっています

定住意向について、「住み続けたい」、「できることなら住み続けたい」を合わせた『住み続けたい』(69.0%)と答えた方は約7割となっており、平成13年度調査以降最も高い割合となっています。



<定住意向×年齢別>

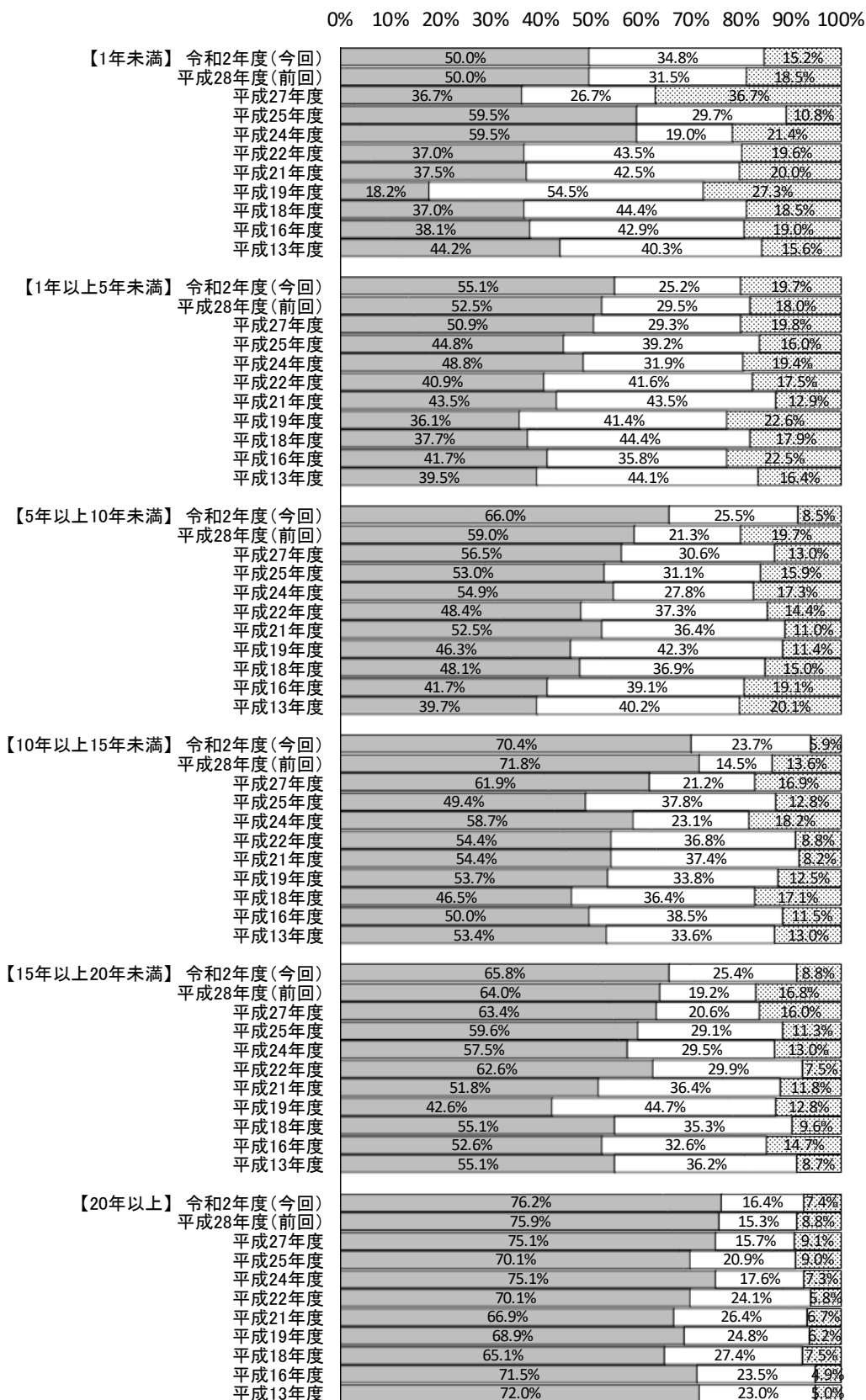
年齢別で見ると、『住み続けたい』は“70歳以上”（80.8%）で最も高く、次いで“60～69歳”（74.5%）となっています。また、『住み続けたい』は平成28年度調査と比べて、“40～49歳”で10.9ポイント、“20～29歳”で5.4ポイント、それぞれ増加しています。



- 「住み続けたい」と「できることなら住み続けたい」の合計比率
- 「どちらとも言えない」の比率
- 「あまり住み続けたくない」と「住み続けたくない」の合計比率

<定住意向×松戸市在住年数別>

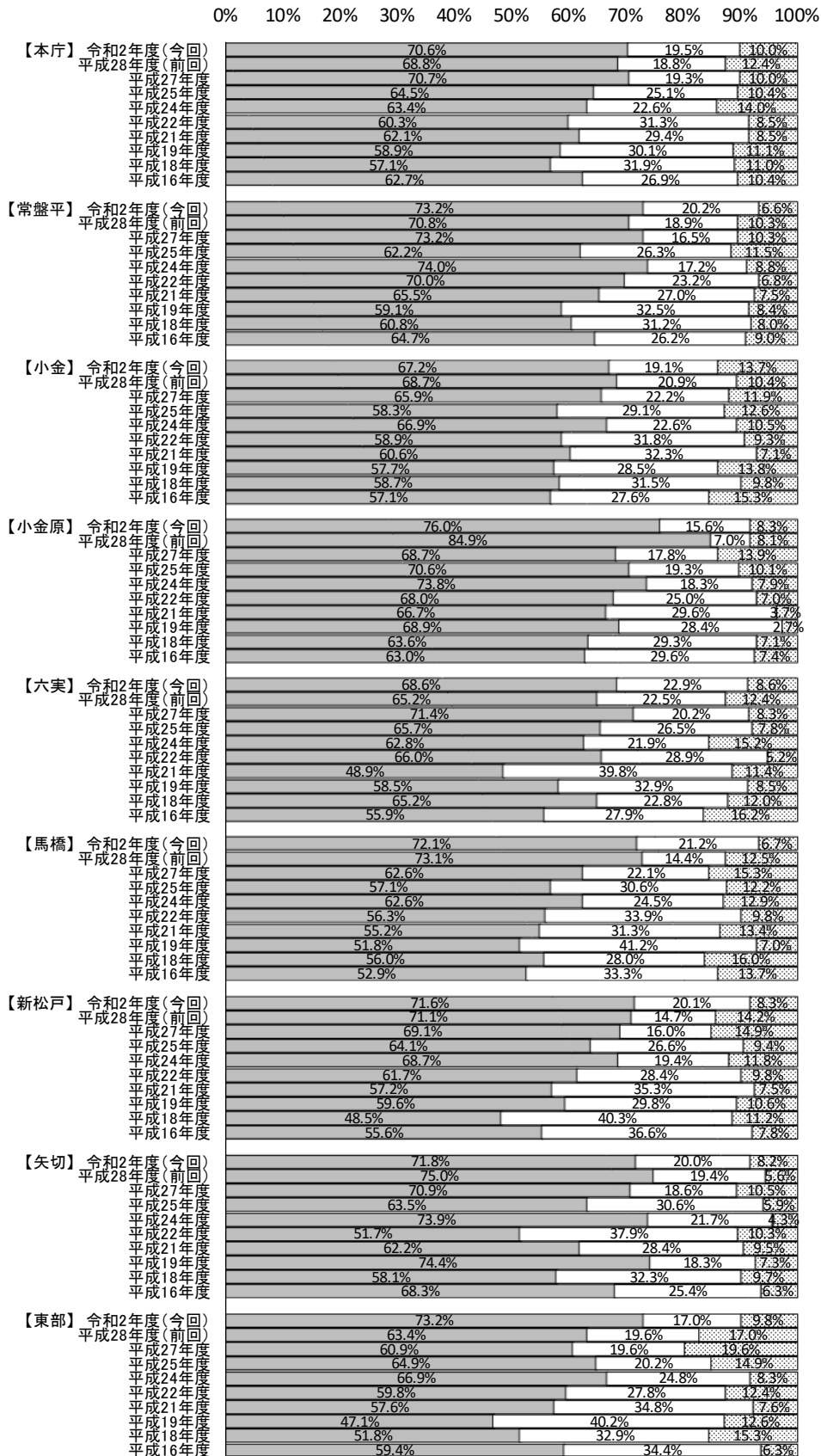
松戸市在住年数別でみると、『住み続けたい』はおおむね在住年数が長くなるにつれて割合が高くなっており、“20年以上”（76.2%）で最も高くなっています。また、『住み続けたい』は平成28年度調査と比べて“5年以上10年未満”で7.0ポイント増加しています。



- 「住み続けたい」と「できることなら住み続けたい」の合計比率
- 「どちらとも言えない」の比率
- ▣「あまり住み続けたくない」と「住み続けたくない」の合計比率

<定住意向×居住地区別>

居住地区別でみると、『住み続けたい』は“小金原”（76.0%）で最も高く、次いで“常盤平”と“東部”（ともに73.2%）となっています。また、『住み続けたい』は平成28年度調査と比べて“東部”で9.8ポイント増加しています。



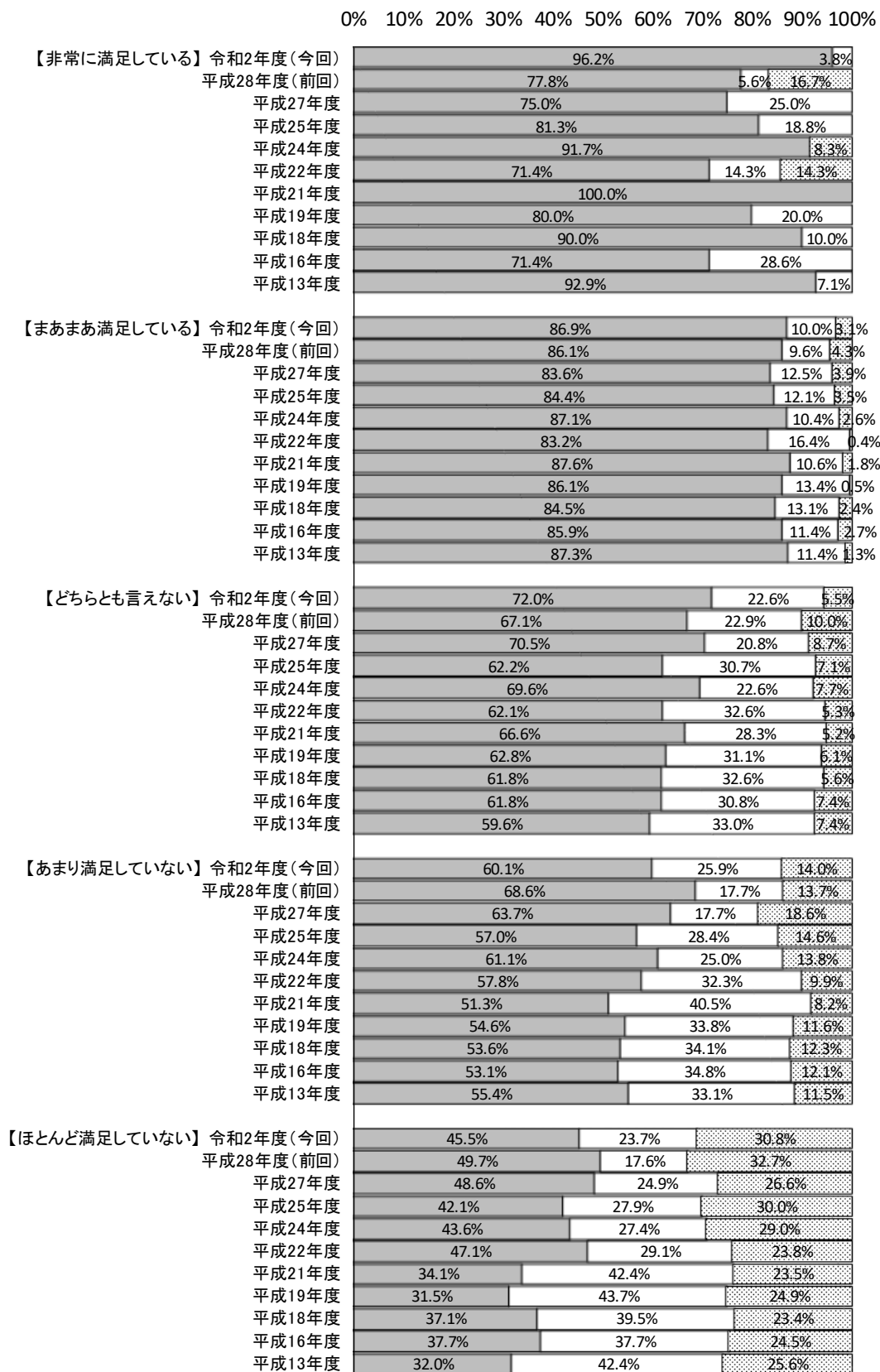
■「住み続けたい」と「できることなら住み続けたい」の合計比率

□「どちらとも言えない」の比率

▨「あまり住み続けたくない」と「住み続けたくない」の合計比率

<定住意向×行政サービスに対する満足度別>

行政サービスに対する満足度別でみると、『住み続けたい』は行政サービスに対する満足度が高くなるにつれて割合が高くなっており、“非常に満足している”（96.2%）と答えた方で最も高くなっています。一方、“ほとんど満足していない”（45.5%）と答えた方では4割程度にとどまっています。



- 「住み続けたい」と「できることなら住み続けたい」の合計比率
- 「どちらとも言えない」の比率
- ▨「あまり住み続けたくない」と「住み続けたくない」の合計比率

《指標》

行政サービスの改善度

(1) 指標の説明

市民の満足度向上のため、行政サービスが改善されたと感じる人の割合を指標とします。

(2) 設問

この指標は、次の設問により直接的に聞いています。「個人・意向」

Q17 あなたは、全体として松戸市の行政サービスについて、どのように感じていますか。次の中から、あてはまる番号1つに○をつけてください。

- | | |
|------------------|------------------|
| 1 以前より非常に良くなっている | 4 以前より多少悪くなっている |
| 2 以前より多少良くなっている | 5 以前より非常に悪くなっている |
| 3 以前と変わらない | |

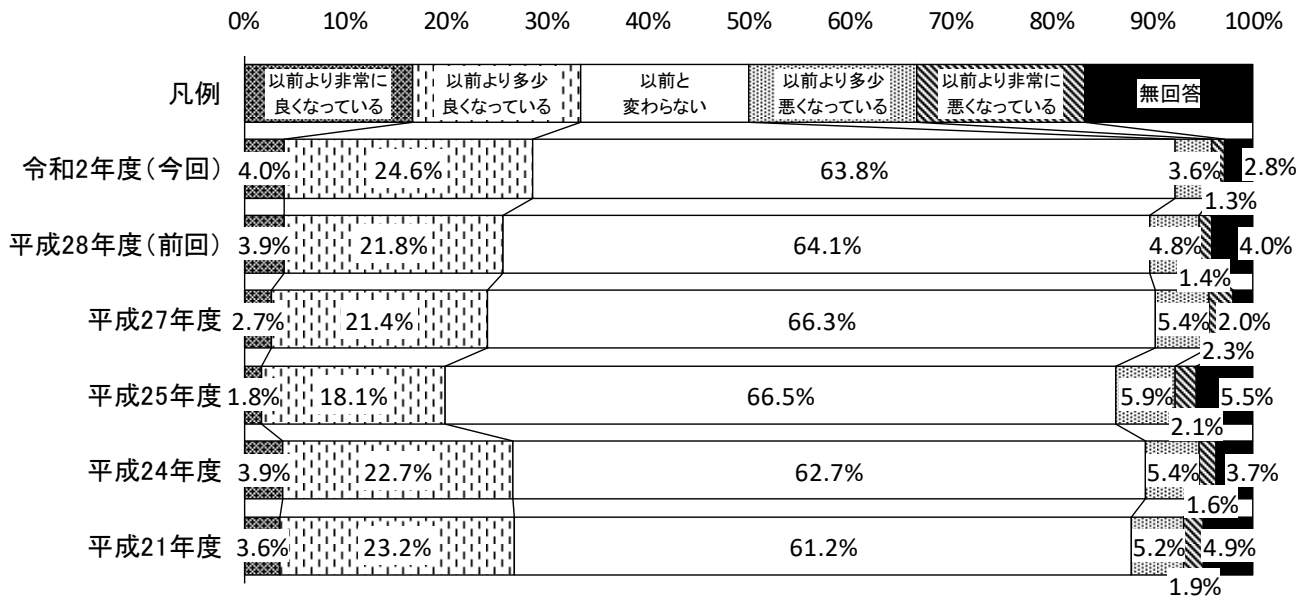
(3) 指標の現状

	平成 21年度	平成 24年度	平成 25年度	平成 27年度	平成 28年度	令和 2年度
以前より非常に 良くなっている	3.6%	3.9%	1.8%	2.7%	3.9%	4.0%
以前より多少 良くなっている	23.2%	22.7%	18.1%	21.4%	21.8%	24.6%
計	26.8%	26.6%	20.0%	24.1%	25.7%	28.6%

(4) 指標の分析

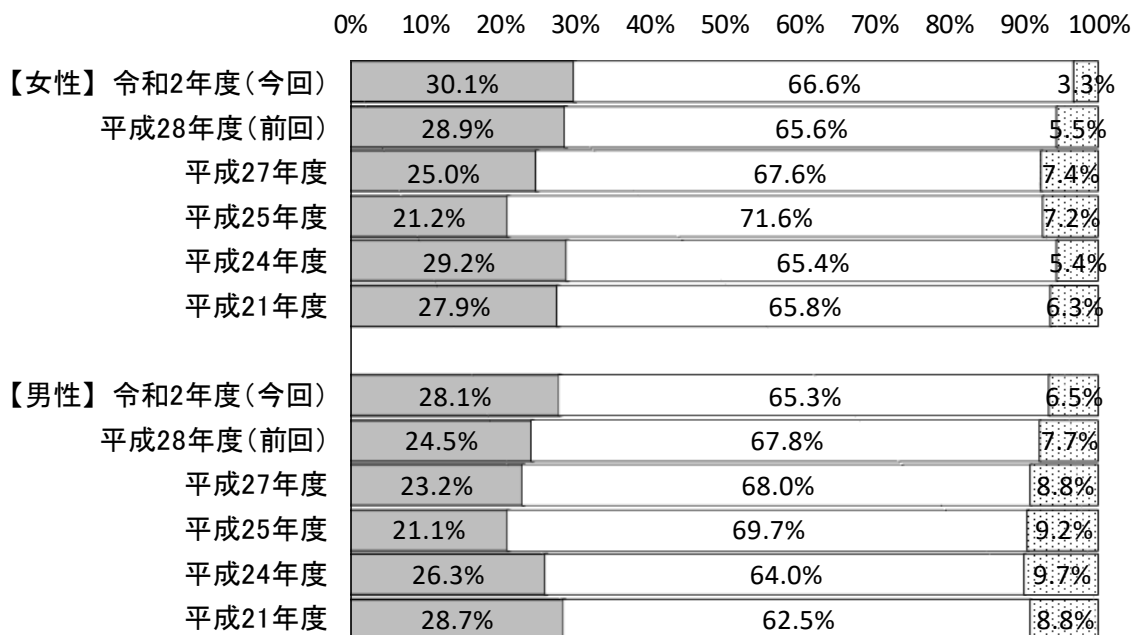
☆行政サービスが以前より良くなっていると感じている人は約3割となっています

松戸市の行政サービスについて、「以前より非常に良くなっている」、「以前より多少良くなっている」を合わせた『以前より良くなっている』(28.6%)と答えた方は約3割となっており、平成21年度調査以降最も高い割合となっています。



<行政サービスの改善度×性別>

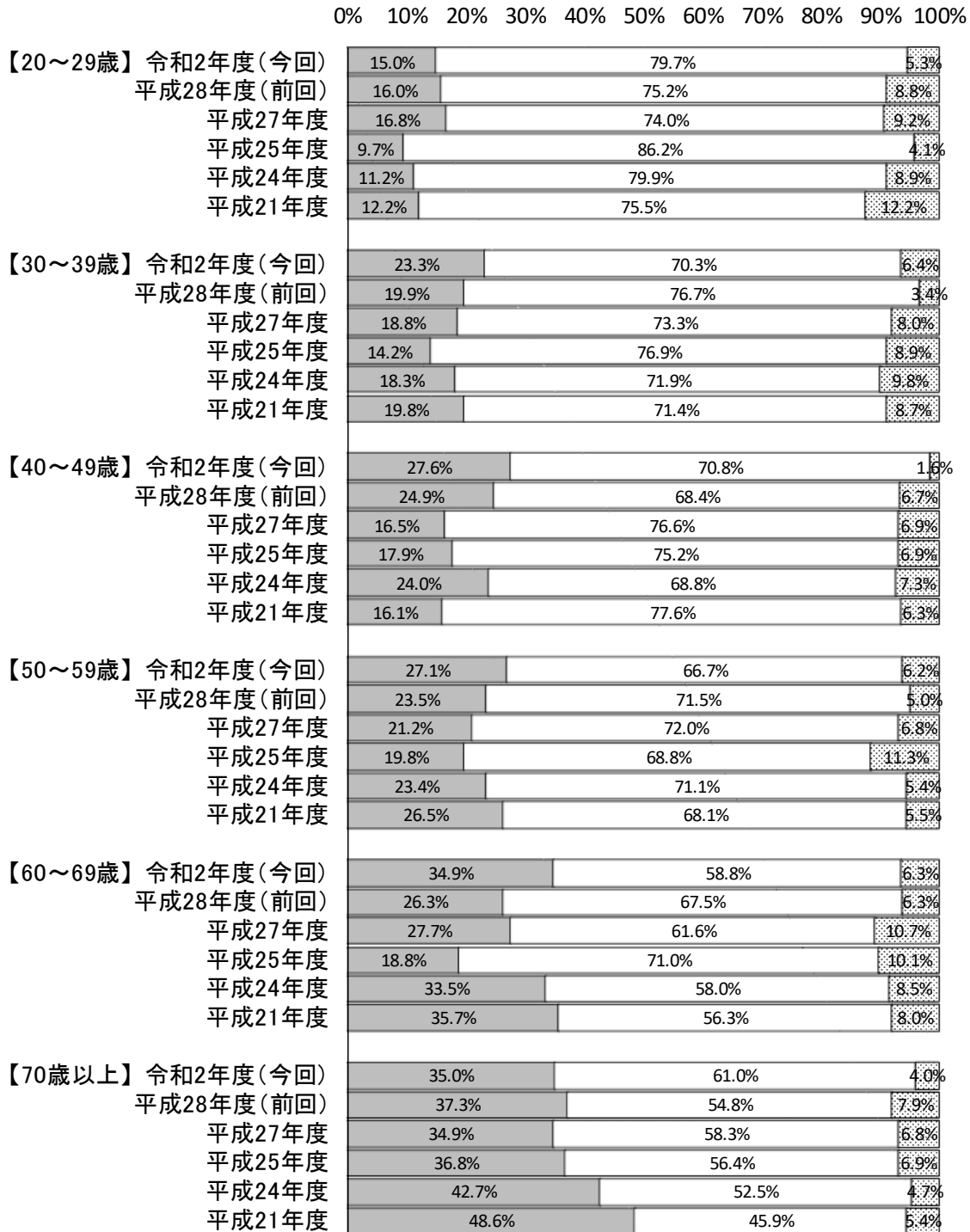
性別で見ると、『以前より良くなっている』は“女性”(30.1%)が“男性”(28.1%)より高くなっており、過去の調査と大きな傾向の違いはみられません。



- 「以前より非常に良くなっている」と「以前より多少良くなっている」の合計比率
- 「以前と変わらない」の比率
- ▣ 「以前より多少悪くなっている」と「以前より非常に悪くなっている」の合計比率

<行政サービスの改善度×年齢別>

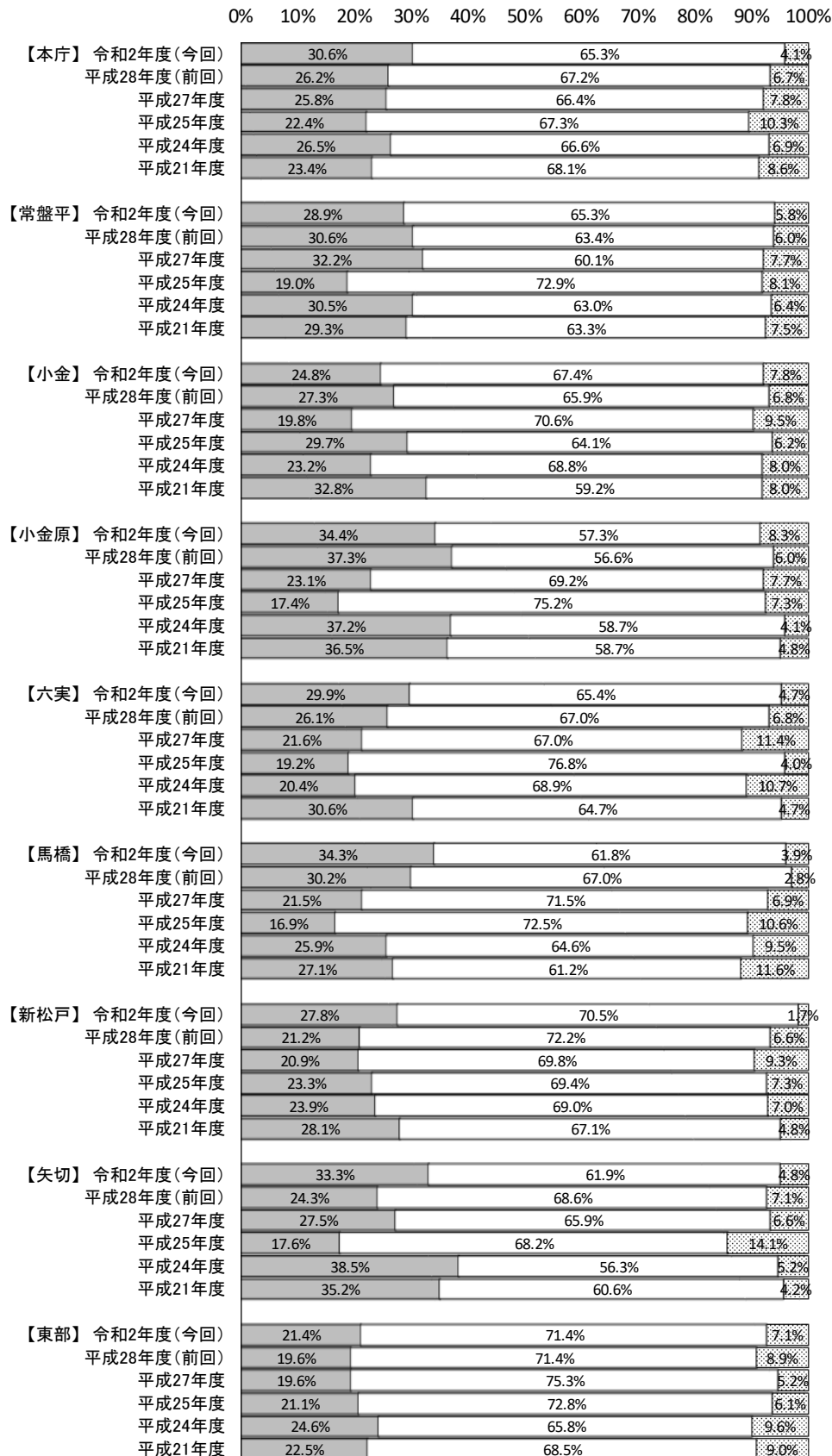
年齢別で見ると、『以前より良くなっている』はおおむね年代が上がるにつれて割合が高くなっており、“70歳以上”（35.0%）で最も高くなっています。また、『以前より良くなっている』は平成28年度調査と比べて“60～69歳”で8.6ポイント増加しています。



- 「以前より非常に良くなっている」と「以前より多少良くなっている」の合計比率
- 「以前と変わらない」の比率
- ▨「以前より多少悪くなっている」と「以前より非常に悪くなっている」の合計比率

<行政サービスの改善度×居住地区別>

居住地区別でみると、『以前より良くなっている』は“小金原”（34.4%）で最も高く、次いで“馬橋”（34.3%）となっています。また、『以前より良くなっている』は平成28年度調査と比べて、“矢切”で9.0ポイント、“新松戸”で6.6ポイント、それぞれ増加しています。



- 「以前より非常に良くなっている」と「以前より多少良くなっている」の合計比率
- 「以前と変わらない」の比率
- ▣「以前より多少悪くなっている」と「以前より非常に悪くなっている」の合計比率

「指標」

行政情報入手手段に係るホームページの割合

(1) 指標の説明

行政の取り組みに関心を持つ市民が増えれば、ホームページで松戸市の情報を入手する市民も増えると考えられます。そこで、行政情報入手手段に係るホームページの割合を指標とします。

(2) 設問

この指標は、次の設問により直接的に聞いています。「個人・態度（評価）」

F10 あなたは、松戸市の行政情報を主に何によって入手しているかお答えください。（2つまで○）

1 テレビ・ラジオ	7 各種パンフレット
2 新聞・雑誌	8 町会などでの集会や会合
3 広報誌（広報まつど）	9 市が主催する説明会など
4 松戸市のホームページ	10 特になし
5 松戸市安全安心メール	11 その他（ ）
6 ツイッター、フェイスブック等のSNS （ソーシャル・ネットワーキング・サービス）	

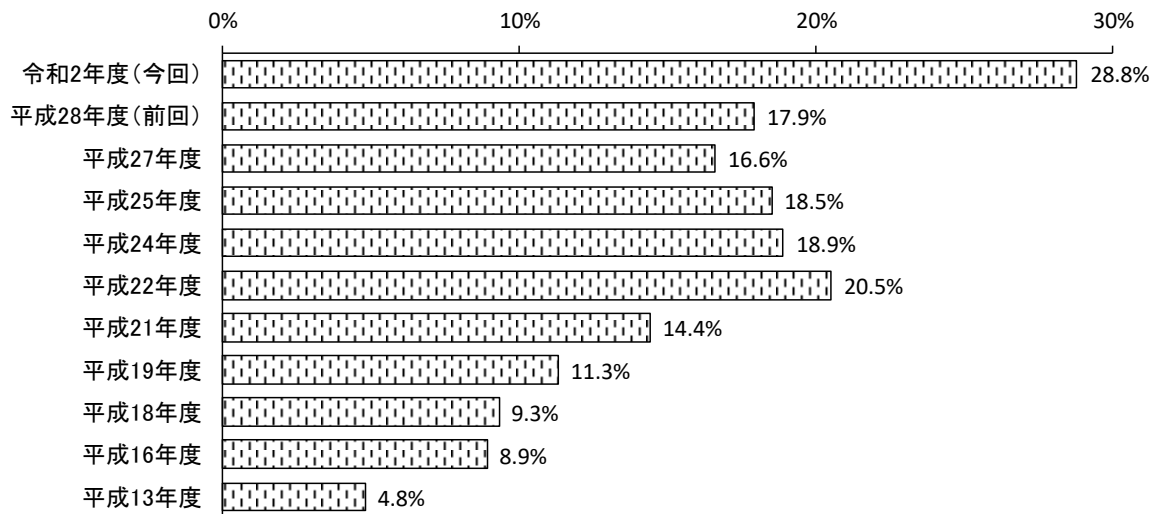
(3) 指標の現状

	平成 13年度	平成 16年度	平成 18年度	平成 19年度	平成 21年度	平成 22年度	平成 24年度	平成 25年度	平成 27年度	平成 28年度	令和 2年度
松戸市のホームページ	4.8%	8.9%	9.3%	11.3%	14.4%	20.5%	18.9%	18.5%	16.6%	17.9%	28.8%

(4) 指標の分析

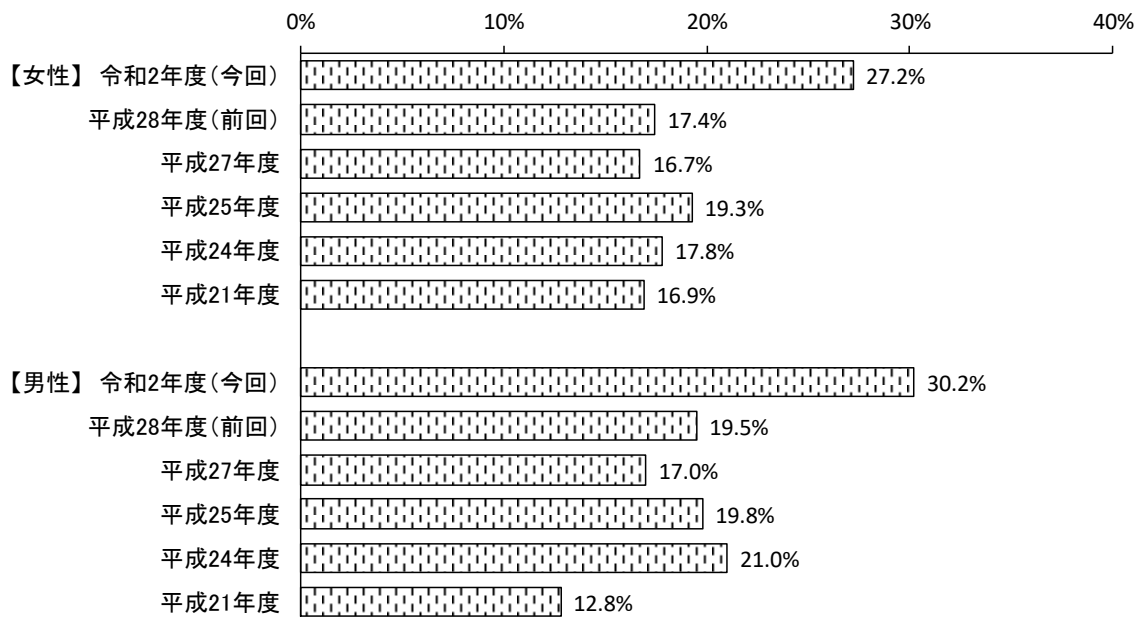
☆松戸市のホームページから行政情報を入手している人は約3割となっています

松戸市の「ホームページから行政情報を入手している」(28.8%)と答えた方は約3割となっており、平成28年度調査と比べて10.9ポイント増加しています。



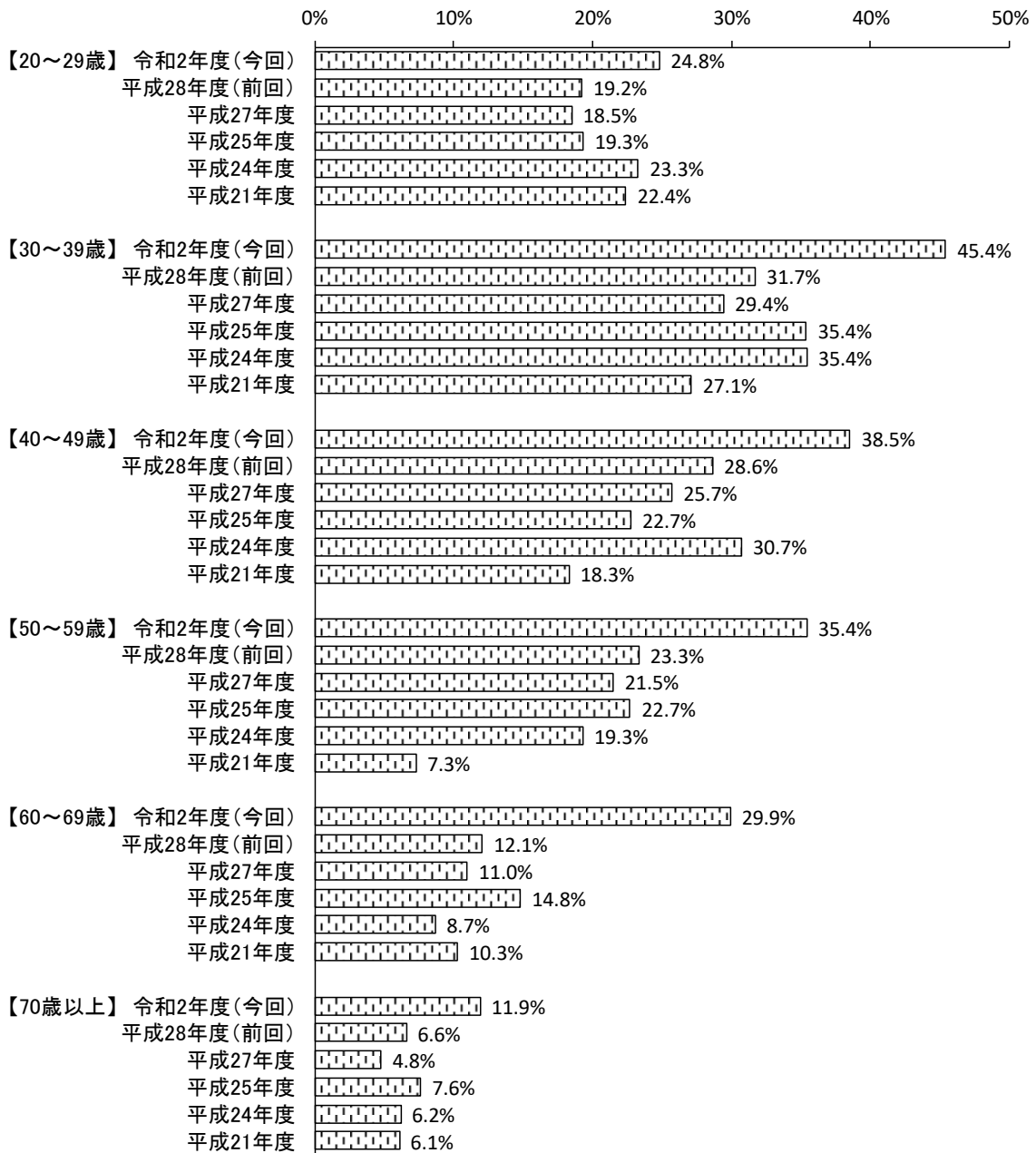
<行政情報の入手手段×性別>

性別でみると、「ホームページから行政情報を入手している」は「男性」(30.2%)が「女性」(27.2%)より高くなっており、平成28年度調査と比べて、男性では10.7ポイント、女性では9.8ポイント、それぞれ増加しています。



<行政情報の入手手段×年齢別>

年齢別でみると、「ホームページから行政情報を入手している」は“30～39歳”（45.4%）で最も高く、次いで“40～49歳”（38.5%）となっており、全ての年代で平成28年度調査と比べて増加しています。



《指標》

インターネットを利用している人の割合

(1) 指標の説明

インターネットを利用できる環境にある人は、その双方向性を活かして、活発に外部とのコミュニケーションを図ることにより、社会における活動範囲が拡大するとともに、生活の質の改善にもつながっていくと考えられます。そこでインターネットを利用している人の割合を指標とします。

(2) 設問

この指標は、次の設問により直接的に聞いています。「個人・行動」

Q11 あなたは、ご自身でインターネット（携帯電話やスマートフォンによるネット利用を含む）を利用しますか。次の中からあてはまる番号1つに○をつけてください。

- | | |
|----------------|---------------|
| 1 毎日のように利用している | 4 ほとんど利用していない |
| 2 時々利用している | 5 全く利用していない |
| 3 たまに利用している | |

(Q11で1～3を選択した人のみお答えください)

SQ1 あなたは、インターネットをどのようなことに活用していますか。次の中から、あてはまる番号全てに○をつけてください。

- | |
|--|
| 1 電子メールの送信によく利用している |
| 2 メールマガジンやニュースなどのメール情報をよく受信している |
| 3 いろいろなホームページを開いて情報を入手している |
| 4 チケット予約やショッピング、オークション参加、株売買など買い物や取引きをしている |
| 5 自分自身でホームページやブログ（フェイスブックやツイッター含む）などを利用し、情報を発信している |
| 6 その他（) |

(Q11で1～3を選択した人のみお答えください)

SQ2 あなたのインターネット利用は、次の中のどれにあてはまりますか。次の中から、あてはまる番号1つに○をつけてください。

- | |
|-----------------------------------|
| 1 パソコンからのみ利用している |
| 2 パソコンが主で、補助的に携帯電話・スマートフォンを利用している |
| 3 パソコン、携帯電話・スマートフォンの利用がほぼ半々である |
| 4 携帯電話・スマートフォンが主で、補助的にパソコンを利用している |
| 5 携帯電話・スマートフォンからのみ利用している |
| 6 その他（) |

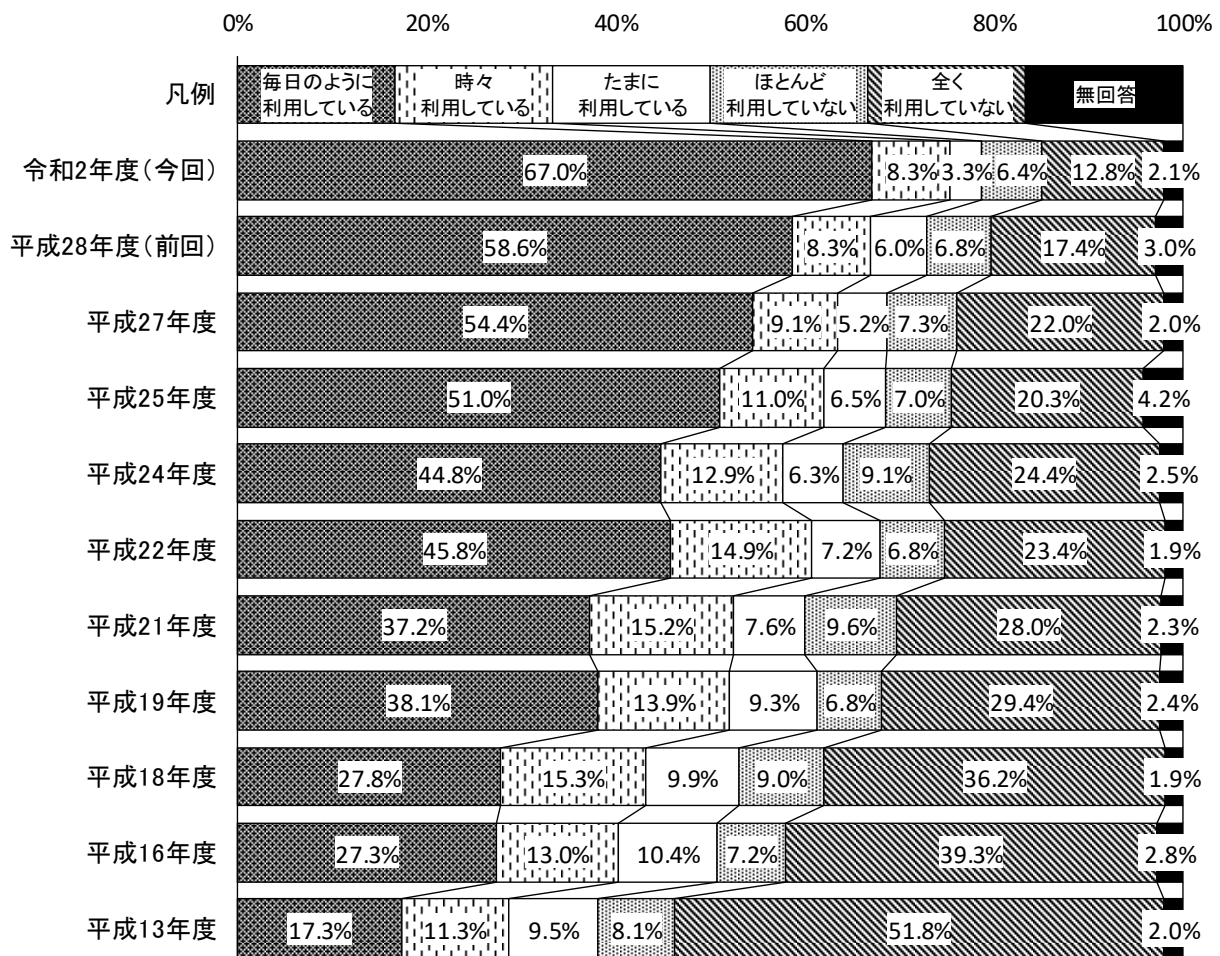
(3) 指標の現状

	平成 13年度	平成 16年度	平成 18年度	平成 19年度	平成 21年度	平成 22年度	平成 24年度	平成 25年度	平成 27年度	平成 28年度	令和 2年度
毎日のように 利用している	17.3%	27.3%	27.8%	38.1%	37.2%	45.8%	44.8%	51.0%	54.4%	58.6%	67.0%
時々利用している	11.3%	13.0%	15.3%	13.9%	15.2%	14.9%	12.9%	11.0%	9.1%	8.3%	8.3%
たまに利用している	9.5%	10.4%	9.9%	9.3%	7.6%	7.2%	6.3%	6.5%	5.2%	6.0%	3.3%
計	38.1%	50.7%	53.0%	61.3%	60.0%	68.0%	64.0%	68.5%	68.7%	72.9%	78.6%

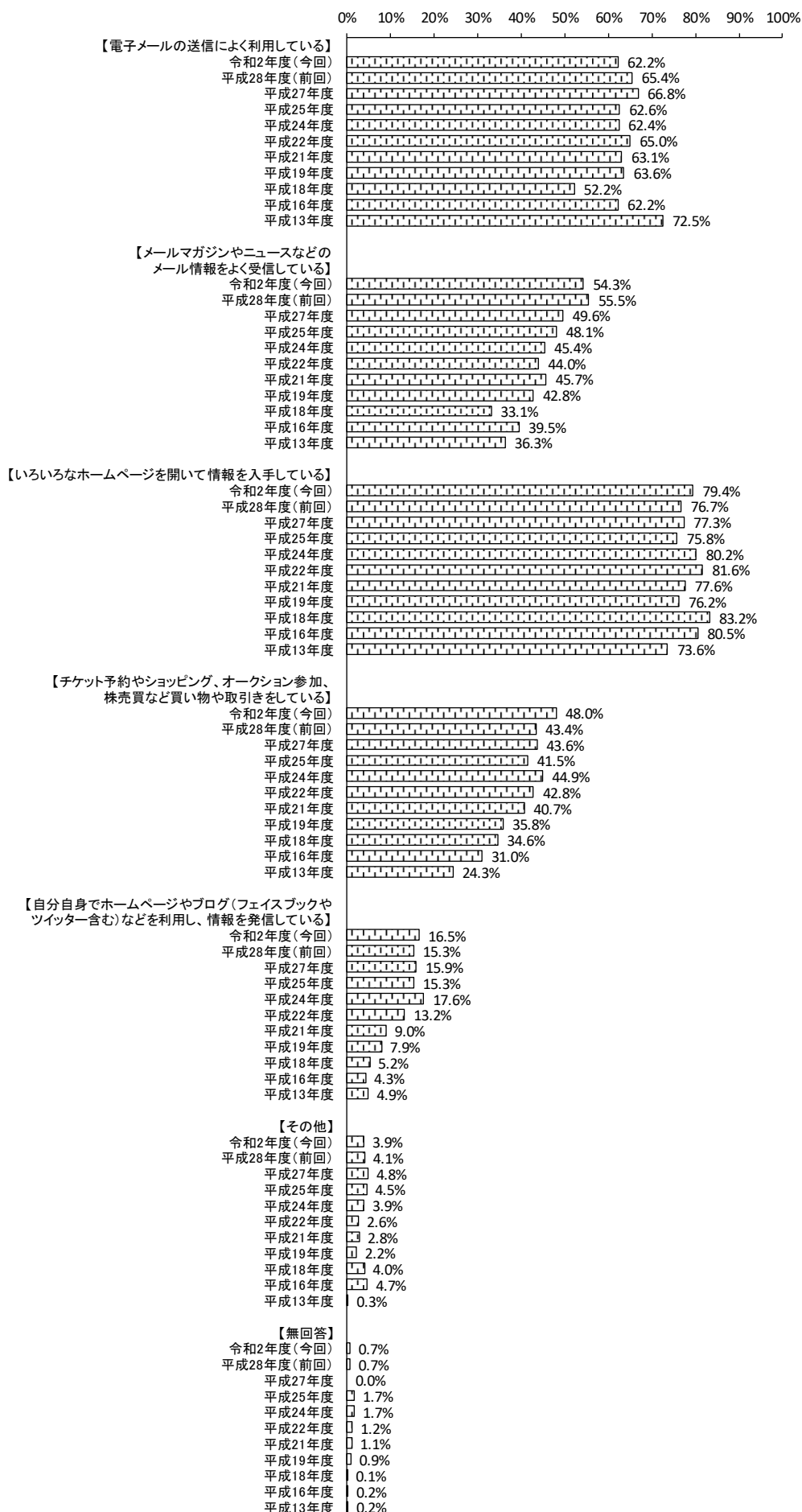
(4) 指標の分析

☆インターネット利用者は約8割となっており、平成13年度調査以降最も高い割合となっています

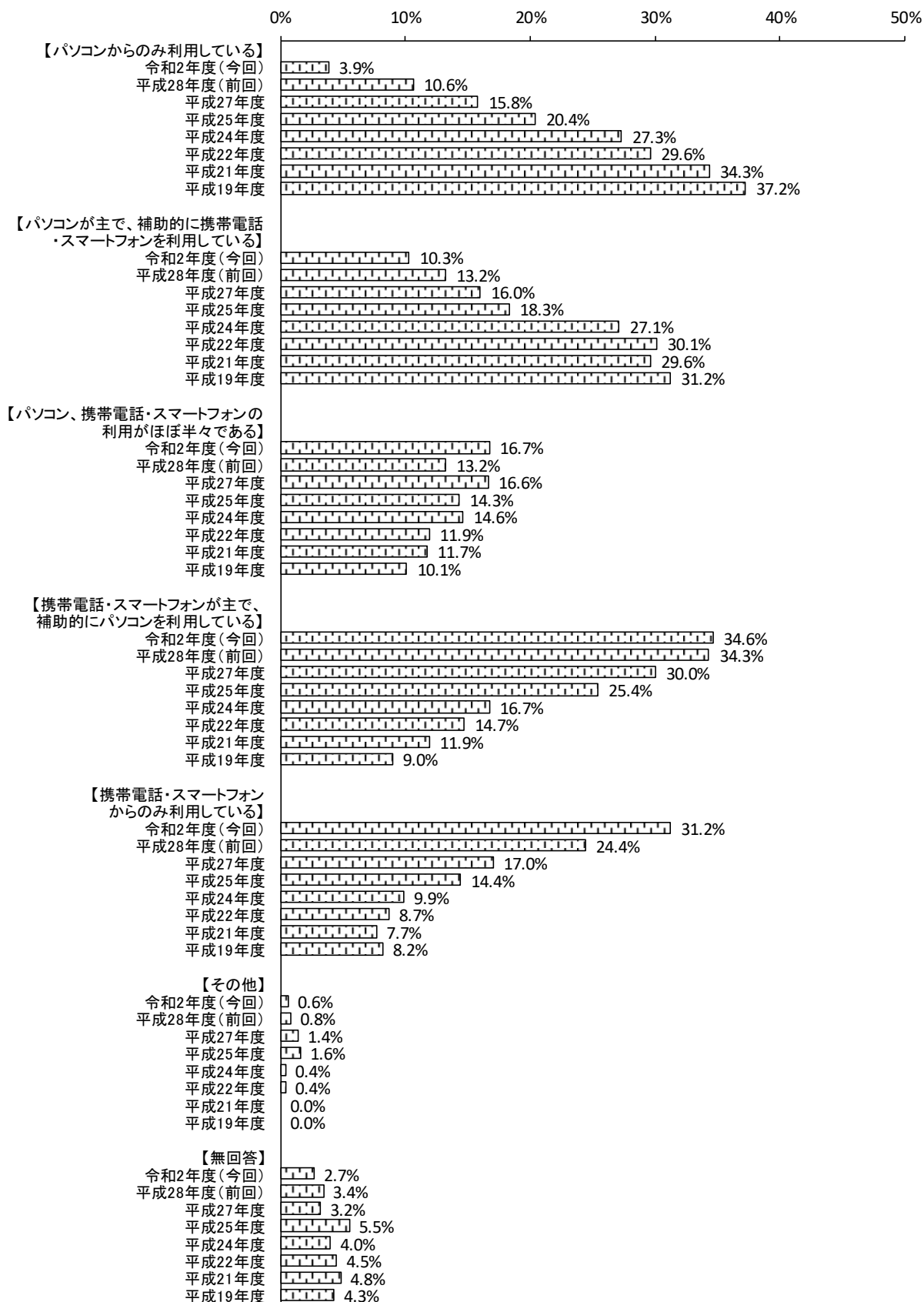
インターネットの利用状況について、「毎日のように利用している」、「時々利用している」、「たまに利用している」を合わせた『利用している』(78.6%)と答えた方は約8割となっており、平成28年度調査と比べて5.7ポイント増加しています。



インターネット利用者の利用目的は、「いろいろなホームページを開いて情報を入手している」(79.4%)が最も高く、次いで「電子メールの送信によく利用している」(62.2%)となっており、過去の調査と大きな傾向の違いはみられません。

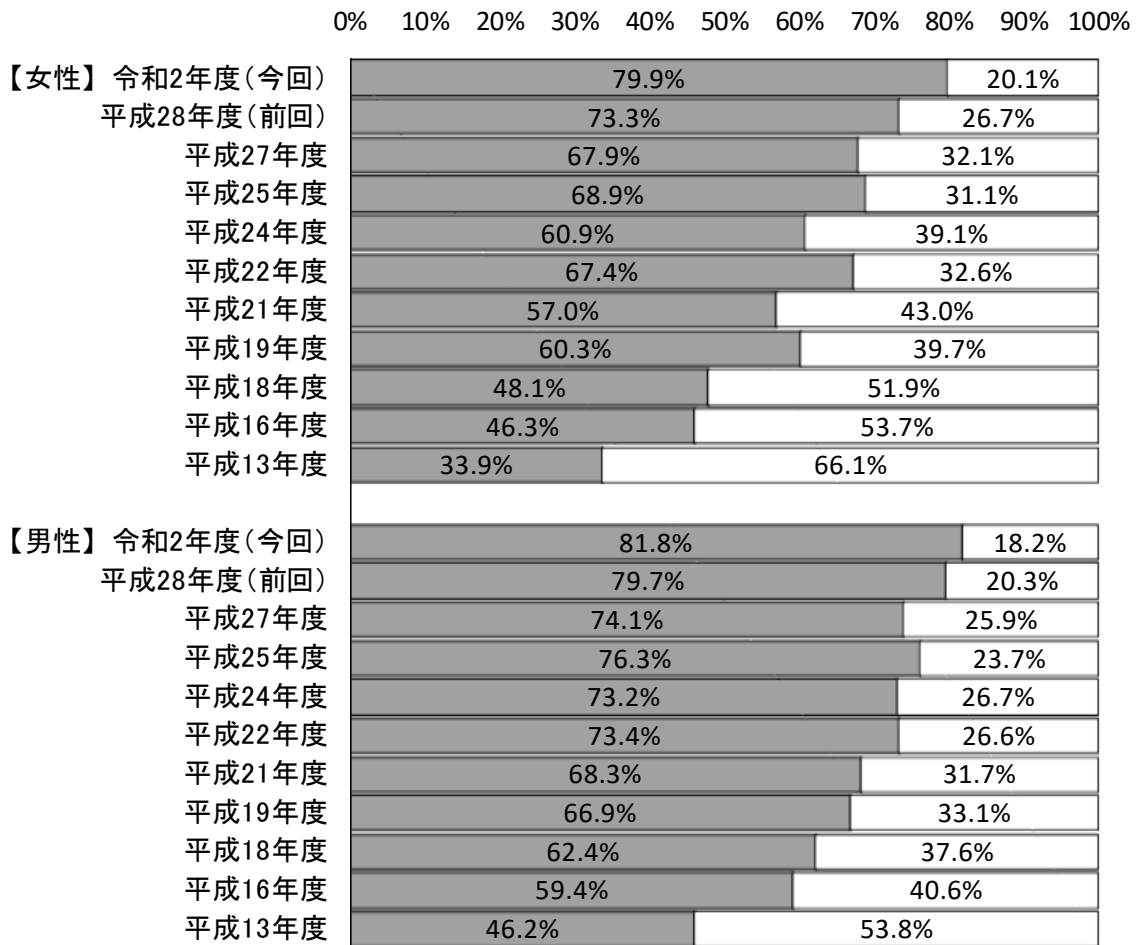


インターネット利用者の利用媒体は、「携帯電話・スマートフォンが主で、補助的にパソコンを利用している」(34.6%) が最も高く、次いで「携帯電話・スマートフォンからのみ利用している」(31.2%) となっています。また、「携帯電話・スマートフォンからのみ利用している」は平成28年度調査と比べて6.8ポイント増加しています。



<インターネット利用状況×性別>

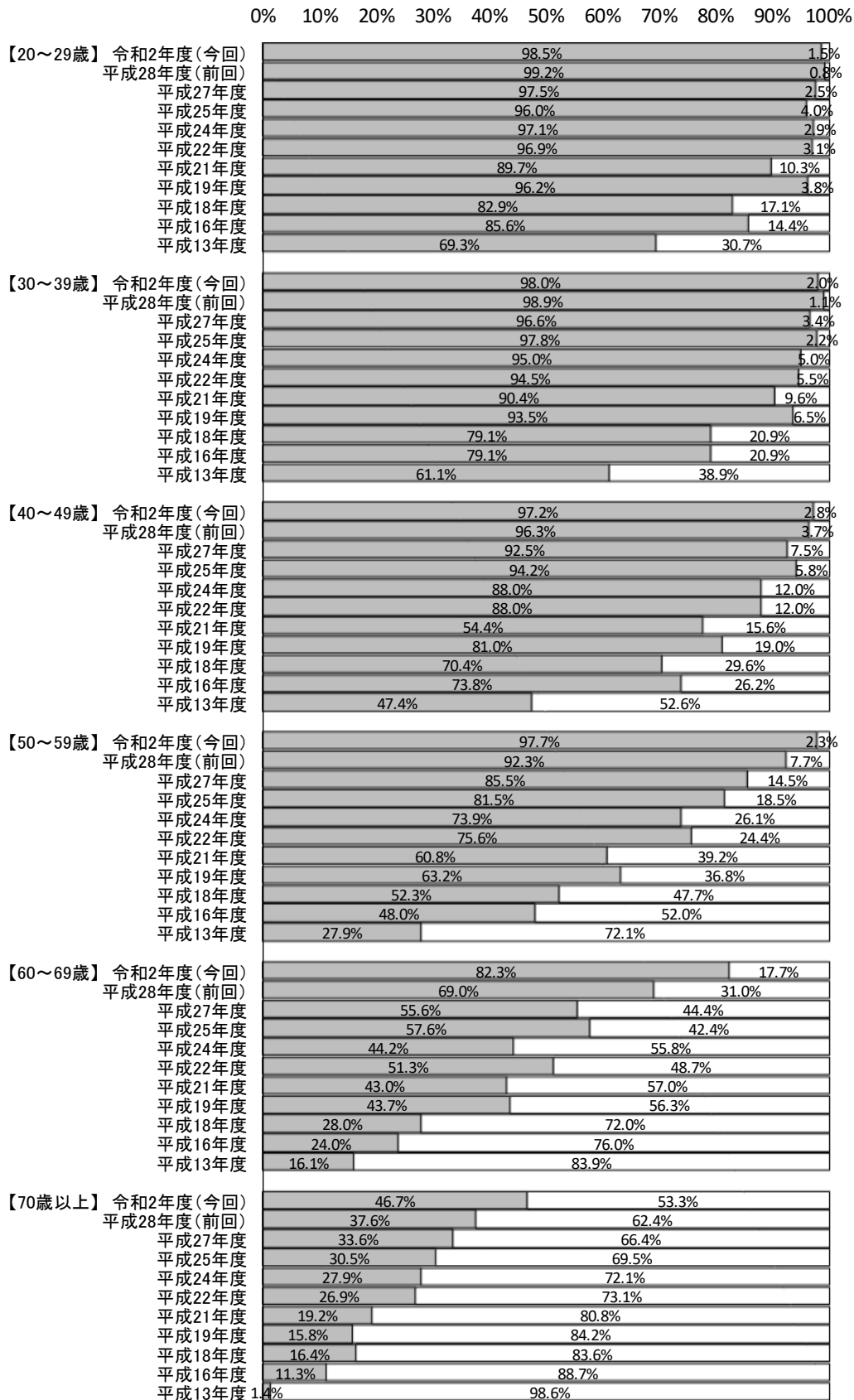
性別で見ると、『利用している』は“男性”（81.8%）が“女性”（79.9%）より高くなっており、男女ともにおむね平成13年度調査以降増加傾向を示しています。



- 「毎日のように利用している」と「時々利用している」と「たまに利用している」の合計比率
- 「ほとんど利用していない」と「全く利用していない」の合計比率

<インターネット利用状況×年齢別>

年齢別で見ると、『利用している』はおおむね年代が下がるにつれて割合が高くなっており、“20～29歳”（98.5%）で最も高くなっています。また、『利用している』は平成28年度調査と比べて、“60～69歳”で13.3ポイント、“70歳以上”で9.1ポイント、それぞれ増加しています。



■「毎日のように利用している」と「時々利用している」と「たまに利用している」の合計比率
 □「ほとんど利用していない」と「全く利用していない」の合計比率